

今の日本はこのままでいいのだろうか？

NPO 法人 武士道協会

=====
NPO法人 武士道協会は、現代日本社会が心の中から崩れてゆきつつあることを案じて、元財務大臣・塩川正一郎を中心に集った有志により結成された組織です。

私たちは、日本古来の武士道精神に思いを致しつつ、現代の時代性を加味し、この国の精神面の礎を築いてゆきたいと願っています。

この目的に向かい、武士道協会は、昨今の日本に起こっている様々な異常な事件や世相に対して、見解を発表し、現代社会に警鐘を打ち鳴らして参りたいと考えております。

今回は、津田常務理事が執筆致しました。ご一読頂ければ幸いです。

=====

本当の犯人は誰なのでしょう？

大阪の個室ビデオボックスで放火があり、客が15人死亡された事件がありました。

犯人の男性はヤケをおこして死にたいが、死に切れない・・・という中途半端な行動で個室において火をつけ、そして逃げ出しました。このような人間は今の世の中に潜在的にたくさんいて、どんどん増えてゆく危険があります。そして、刑務所に入れても、死刑にしても何の効果もないというのが現状です。結論を言えば、こういう人間を育てた環境を改善しなければよくなりません。本当の犯人は誰なのでしょう？

まず、第一に幼児教育の責任は両親でありましょう。親の責任は最重要です。しかし、戦後、武士道、言い換えると道徳教育を禁止され、親を育てた祖父母でさえも受けていないのですから、親を責めるのも忍びなく、今更矯正するのは大変です。

第二の責任は学校教育です。子供が学校へ行けばつい両親は学校に頼ろうとします。それは仕方がないことですが、PTAは生徒がもっと先生を尊敬し、先生も誇りを持てるような環境を造るよう努力すべきでしょう。良い教育は、PTAと学校の協力体制が不可欠です。しかし、最近はそのPTAの対応に教師が苦戦を強いられています。それは、道徳教育を受けずに育ってきた人が親になったからなのです。今の教育の方策は、教師が自らの手で自分の首を絞めているように思えてなりません。何とか学校のあり方を変える方法はないのでしょうか。

又、道徳教育は知育よりも優先して重要です。日本の教育は武士の家庭教育から、後年は寺子屋になり、武士も農民も、商人も、子供は平等に教育されました。ここでは武士道を初めとして宗教、商人道、儒教、論語が先ず教えられました。戦争に負けてからの教育は道徳教育が禁止されました。このことが、欠陥人間を造る原因になりました。

そこで、組合員の多い日教組が先陣を切り、若い教師達の心の健康を守るためにも、反省すべき点は反省し、学校教育に人間性を培う道徳教育を取り戻す努力をしていただきたいと思っております。反省とは悪い点も良い点も客観的に己を見直すチャンスです。京都は明治2年「番校」という小学校を84校、政府に関係なく全市に設立しました。寺子屋の延長線にある番校のような学校の再来を夢見しています。

第三の原因は市場原理主義です。お金儲けを最大の目的として社会貢献を忘れた企業方針からマネーゲームに走る人々が増えました。これも、道徳教育なく育った人々が、自己都合により“損得”で物事を判断する結果です。今度の放火犯人もギャンブルにはまって自宅も売り、将来の希望を失った結果の犯罪です。

どうか一日も早く道徳教育を復活して、学問として哲学、宗教に加えて論語や商人道などの「武士道」を教えていただきたいと思っております。

NPO法人武士道協会

常務理事 津田佐兵衛

=====
特定非営利活動法人 武士道協会

<http://www.bushido.or.jp/>

■理事長： 塩川正一郎

■事務局連絡先： info@bushido.or.jp

TEL 075-681-5514 FAX 075-682-3565

〒601-8411 京都市南区西九条北ノ内町11番地 (株)PHP研究所内

=====

※協会の詳しい資料をご希望の場合はご連絡ください。